

研究タイトル:

英語表出における論理表現使用の分析

氏名: 佐々木 恭子 / SASAKI, Kyoko

E-mail: k-sasaki@yonago-k.ac.jp

職名: 准教授

学位: 修士(学術)

所属学会・協会:

英語コーパス学会、中国地区英語教育学会、全国英語教育学会、
全国高等専門学校英語教育学会

キーワード:

コーパス言語学、応用言語学、語用論、論理・原因表現使用分析、ジャンル・レジスター分析

技術相談

提供可能技術:

・コーパスを使用した言語現象の分析、言語現象の分析結果に基づく教材開発
・英語資格試験対策、英語多読指導、英語プレゼンテーション指導



研究内容: 英語表出における論理に関する表現の使用分析

日本語と英語の論理構造の違いにより、日本人学習者の英語表出(話すこと・書くこと)には、特徴的に生じる課題がいくつかあります。

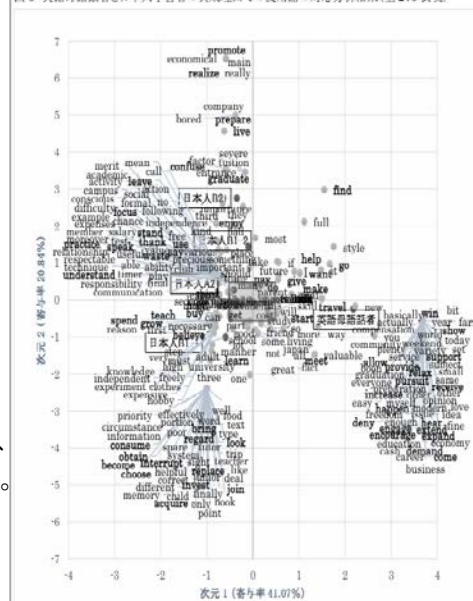
その中で注目すべき課題として学習者の because の過剰使用があり、これによって論理の核となる理由表現で違和感が生じる傾向があります。課題の解決のため、because の使用について母語話者と学習者の使用例を集め、統計的に差異を分析し、群ごとの特徴を考察します。

手法としては、話し言葉のスクリプトや文章テキストのデータを電子的に集積して作られたコーパスを、目的に沿って使用します。コーパスデータをコンコーダンスにかけるなどして抽出した対象語の頻度をクロス表にまとめ、統計的に分析します(右図は作文使用語彙を対応分析した図)。

コーパスは、10 億語を超えるアメリカ英語のサンプルをジャンル別に集積したものや、アジアの国や地域の学生の英作文コーパスなどと多様で、日本語のものも存在します。研究目的に沿ったコーパスの自作も可能です。

分析結果を質的に考察することで、学習者の英語表出をより自然なものに近づけるために必要な指導上の工夫や教材開発の方向性を検討し、指導者が現場で使用しやすい形で提言します。

図3 英語母語話者と日本人学習者の賛成理由での使用語の対応分析結果(全270表現)



担当科目

英語総合Ⅰ、英語総合Ⅲ、英語総合演習

過去の実績

2021 年度一般社団法人大学女性協会「神戸支部奨学生」選考口頭発表 入賞

近年の業績

(研究・教育論文、特許含む)

- 佐々木恭子 (2024)「日本人高校生へ向けた英語原因表現指導への提案:COCAにおける使用傾向に基づいて」『中国地区英語教育学会誌』. 54, 25-37.中国地区英語教育学会. (査読あり)
- 佐々木恭子 (2022a)「多様なコミュニケーション場面に応じた英語理由接続詞の選択: 言語使用の『場』を意識した英語教育を目指して」『中国地区英語教育学会誌』. 52, 13-25. 中国地区英語教育学会. (査読あり)
https://doi.org/10.18983/caselejournal.52.0_13
- 佐々木恭子 (2022b)「日本人学習者の英語意見表明文での because による因果表出傾向」『統計数理研究所共同研究レポート』 456, 130-148. 統計数理研究所.
<https://doi.org/10.24546/81013074>
- 佐々木恭子 (2021a)「日本人学習者の英語原因表現使用:ICNALE に基づく量的概観 - 原因表現 34 種の使用実態の解明-」『英語コーパス学会大会予稿集 2021』49-54. 英語コーパス学会. https://jaecs.com/conf_47/jaecs47_proceedings.pdf
- 佐々木恭子 (2021b)「高校生の英作文に見る because 使用: 頻度・文中位置の視点から」『統計数理研究所共同研究レポート』 444, 139-158. 統計数理研究所.
<https://doi.org/10.24546/81012579>